

### 34. $^{67}\text{Ga}$ -ヒトフィブリノーゲンで左室内血栓を検出し得た 2 例

筆本 由幸 坂本知三郎 松村 龍一  
 吉野 孝司 小林 亨  
 (大阪府成人病セ・循環動態診)  
 野口 敦司 長谷川義尚 中野 俊一  
 (同・アイソトープ)

心筋梗塞後に発生する左心室瘤に血栓ができることはよく知られている。われわれはガリウムヒトフィブリノーゲンをうい、左心室瘤内の血栓のイメージングに使用したところ、非常に有用であったので報告する。

使用したガンマカメラは日立ガンマビュー F 型で、コリメータは中エネルギー用ガリウム専用コリメータ (MEGA) である。使用したフォトピークは 93 keV と 184 keV でウインドウは 20% である。症例はコントラスト LVG にて血栓の存在が確認された症例を対象とした。

症例 1: 61 歳, 男性. 昭和 61 年 9 月 18 日に前壁梗塞発症.

症例 2: 58 歳, 男性. 昭和 55 年 3 月 31 日に前壁および下壁梗塞を発症.

症例 1 では心筋梗塞発症後, 約 2 か月でイメージングを施行した新鮮な血栓を有する症例であり, 症例 2 は心筋梗塞発症後, 約 7 年と古い血栓であると考えられる。両者を比較すると, 新鮮な血栓では全体に, 古い血栓では一部分にガリウムヒトフィブリノーゲンが取り込まれたことは血栓形成物質の turn over に関連していることを示唆するものである。

### 35. $^{67}\text{Ga}$ -DFO-DAS-フィブリノーゲンによる動脈血栓診断の有用性の検討

大中 恭夫 鈴木 輝康 山崎 俊江  
 古西 博明 青木 茂 内田 清久  
 神武 裕 山崎 道夫 川口 清隆  
 山崎 武 (滋賀医大・放)  
 増田 一孝 大西 英雄 池本 嘉範  
 浜津 尚就 (同・放部)

[対象]

CT, DSA, RI-アンギオ, アンギオで動脈の循環障害

(解離性動脈瘤, 胸・腹部大動脈瘤, ASO など) が確認された患者 39 名.

[方法]

1. 標識  $^{67}\text{Ga}$ -DFO-DAS-フィブリノーゲンの準備  
 凍結乾燥の DFO-DAS-フィブリノーゲンのキットを 2 mCi の  $^{67}\text{Ga}$ -クエン酸で溶解し, 標識した.

2. 撮影方法

$^{67}\text{Ga}$ -フィブリノーゲン静注 72 時間後に中エネルギーコリメータ装着のシンチカメラで撮影した.

[結語]

1. 従来の標識フィブリノーゲンと異なり,  $^{67}\text{Ga}$ -フィブリノーゲンは, フィブリノーゲンそのものの生物活性を低下することなく, 標識されているため, 動脈血栓を陽性画像として描出することができた.

2. 血栓のうち, 血流が存在し, かつ生物活性のある部分が描出できた.

3. 逆にいえば, 血流の存在しない血栓は描出できず, これは本検査法の欠点である.

### 36. 肺梗塞の活動性血栓の検出における Indium-111 血小板シンチグラフィの有用性について

井坂 吉成 木村 和文 上原 章  
 橋川 一雄 小塚 隆弘 (大阪大・中放)  
 津田 能康 田内 潤 米田正太郎  
 鎌田 武信 (同・一内)

肺梗塞症例において, Tc-99m MAA venography, 肺シンチ, In-111 血小板シンチグラフィを行い, 肺梗塞の血栓形成の病態把握の上での有用性について検討した。対象とした症例 5 例中 3 例は, 肺梗塞に肺高血圧症が合併していたもので, 診断はそれぞれ SLE Eisenmenger 症候群, 原発性肺高血圧症である。他の 2 例は下肢静脈瘤の存在が確認されていた。In-111 血小板シンチグラムは, 標識血小板静注 48 時間後に, 胸部, 腹部, 下肢にて撮像した。肺梗塞に肺高血圧症の合併していた 3 例のうち 2 例において肺動脈の主幹部に血小板集積を認めた。標識血小板集積の認められたのは, いずれの症例においても肺の血管床の荒廃のより少ない側であった。下肢に静脈瘤を有していた 2 例においては, そのうち 1 例において静脈瘤の部位に血小板集積を認めた。肺梗塞にて血小板集積のよく認められるのは, Tc-99m MAA で陰影欠損の認められる肺野の部位よりもむしろ塞栓源と考え